



冬の大三角形は、いつ見えるの



場所によってちがうけど、午後8時ごろ観察するなら、1月中ごろから3月の初めごろがいさ。

冬の大三角形とは、1月なかばの午後8時ごろ、南東の空に大きな三角形の形に目立つ星が3つ並んで見えるものです。3つの星は、こいぬ座さのプロキオン、オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウスです。全天でいちばん明るいシリウスや、オリオン座の真ん中あたりの3つ並んだ星が、探す目印になるでしょう。

星座は、星の並び方は変わらないけれども、時刻じこくによって、見える位置がちがいます。しかし、次の日の同じ時刻には、ほぼ同じ位置にもどっています。また、1週間後の同じ時刻に観察すると、北の空以外なら、前より西の位置に見えます。

冬の大三角形を見やすい時刻は冬だが、おそい時刻なら秋でも見られる

じつは、地球が1日1回転しながら、1年かかって太陽のまわりを1周しているため、時刻や季節によって星の位置が変わります。1日1回転するから、360度を24時間で割ると、1時間に15度ずつ星が動くことがわかります。また、1年かかって1周するから、360度を365日で割れば、1日に約1度、1か月で約30度も位置が変わります。そのため、1月20日午後8時の星の位置は、1か月前の2時間おそい時刻である12月20日午後10時と同じになります。

冬の大三角形は、午後8時ごろ見るなら、1月中ごろから3月初めが見やすいけれど、真夜中や夜明けまでおきているなら、秋でも見ることができるわけです。

